

6月に入り雨の日もあり、梅雨に入りそうな気配です。子どもたちが休み時間を工夫して過ごし、上手に切り替えをして学習に集中できるようにしたいものです。

今年度2回目の授業研究、6年2組大野先生の授業と事後研の様子をお知らせします。本単元は、「読むこと」の領域で設定されている教材ですが、今回、「書くこと」の領域で単元を構想していました。実際に、「新聞に投書する」という単元ゴールを目指し、書き表し方を学ぶという目的を持たせています。書くために教材の投書を読み比べその工夫を学び、自分の考えの形成ができるように単元計画を立てています。本時は、7/8時間目です。

単元名 「投書デビューをしよう」

教材名 「新聞の投書を読み比べよう」

研究授業：6年2組 大野 香奈 教諭

身に付けさせたい資質・能力： 自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して書く力

学習の流れ

「投書デビュー」
学習の流れ(全8時間)

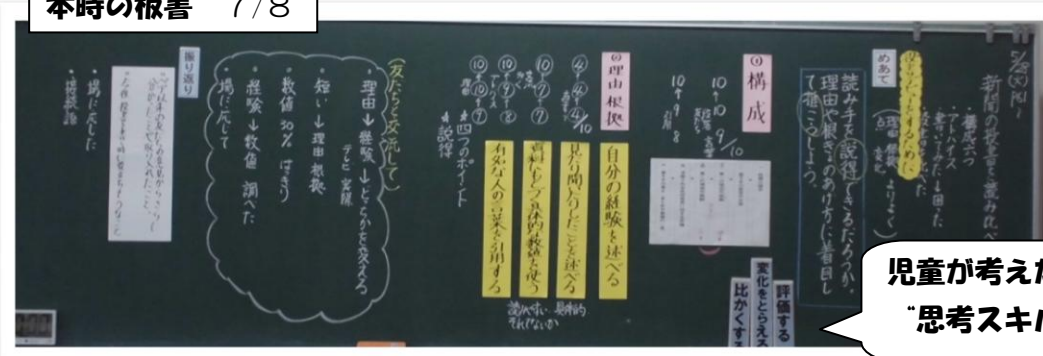
1. 学習の見通しを持つ(2)
・これからどんな力が必要だろう。
・投書を読んで書く。

2. 4つの投書を読み比べよう(3)
・それぞれの投書の構成や説得の工夫を確かめる
・自分が納得した投書を選び、伝え合う。
・読み手を説得するための情報を考え、整理する。

3. 読み手を説得する投書を書こう(3)
・内容を考え、投書を書く。
・書いた投書を友だちと推敲する。
・推敲を基に、投書を清書する。

付けたい力
投書を読み比べ、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる力

本時の板書 7/8



児童が考えた『思考スキル』



友達の投書を説得の工夫を確かめながら読んでいます。

授業者のリフレクションシートより

資・能 「読み手を説得する投書を目指して書く」という言語活動で、ゴールをはっきりさせ「本当に投書を出す」意識付けを図りながら学習を進めることができ、本気で書こうという意欲になり、教科書と自分の投書を比べ工夫を考えていました。

主・対・深 今回、子どもたちに求めた対話的な学びの中で、「読み手」になって対話させればよかったということが勉強になりました。立場を変えることで深い学びへと導いていけることが分かり、対話させる際の視点の工夫が必要だと思いました。

見・考 情報の収集、整理の仕方がもう少し文章と絡められたらよかったです。4つのポイントは入ったけれど、情報との関連、言葉の使い方などこだわる所はたくさんあり、それをどこまで求め、時間の中で身に付けさせるかは課題です。

4つの視点で授業参観、グループでの研究協議を行い、全体共有しました。(抜粋)

1. 「資質・能力」を身に付けるための最適な言語活動であったか。

○目的意識(新聞への投書)が明確なので、ゴールに向かって学習していく児童の意欲につながっていた。

▼題材の設定が共通だったので、考えの理由や根拠が画一的になっていたのではないか。

2. 本時の目標が達成できたか。

○自分の投書を得点化することが、よりよいものに改善していくという本時の目標の手立てとなっていた。

○全体交流で児童が理由まで述べられるように必ず問い返し、そう考えた理由を自問しながら発言することで自分の考えが伝わる投書にしようとしていた。

▼書いた文章を書画装置などで提示して全体で見合いながら全体交流することもできたのではないか。

▼本時は、読み手として納得できるかという角度で推敲していくことが大事ではないか。多面的、多角的(書き手、読み手となり)に、学びを成立させていくことが大事。

3. 「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」は実現していたか。それはどんな事実からか。

○児童自身が学習展開を考えている状況を作り、必要性・見通しを持って自ら活動し主体的な学びになっている。

○ペア対話では、友達の投書に責任持って助言しようとする姿が見られ、全体交流では、対話したペアの両者から意見を聞き、学習が明確になっていた。

○初めに書いた(困り感を持たせた)投書と教材で学習後に書いた投書を比べて、どんな力が付いたか実感できる。

4. 「言葉による見方・考え方」を働かせた児童の姿は見られたか。

○書き表し方の工夫(数値や適切な接続語、経験だけでなく見聞も合わせて取り入れた方が伝わる etc)を全体で発言する児童の姿があった。 → ▼全体共有ができていたか。

宗崎指導主事より(本単元・本時の学びのポイント)

① **学びに向かう姿** 対話で相手の投書を評価し、相手の投書に納得できたかという視点で推敲につなげていた。○点→足りない○点をどうしていくか考え、子どもたちは自分の表現をさらに良くしていく。

② **思考スキル活用[関連付ける]** 自分の考えを伝えるためのぴったりな理由、根拠になっているかという視点で推敲させたい。自分の伝えたいことからそれていないか。

③ **導入での目的、課題意識** 児童がまず書いてみて、(なんか上手く書けない)(困った)という課題意識から教科書で学んでいこうと意味を持って単元を通して学習を進めることができていた。

④ **身に付いた力を活かす** 自分の考えを誰かに伝える文章を書くために、構成と考え、その理由・根拠を入れて書くことの重要性を児童が認識して活用できるようにさせたい。

⑤ **推敲の文化を** 漢字で書く文字は当然漢字にすること。どの学年どの学級でも児童に身に付けさせたい。

児童に考えさせ、決定させ、判断させ常に自分事として、活動に責任を持たせながら、毎時間の学びを大切に積み重ねている大野先生の授業。必ず問い返し、児童同士の発言をつなぎ、語れる児童を育てています。

『「3分の1」よりも30%(の表現)が良い』と書き表し方に着目して、言葉を選んで表現しようとする児童の発言。

このような姿を全体共有しながら言葉に注視し、活用していく授業づくりをしていきたいと感じました。

「友達と」「クラスで」能動的に学習する授業公開、ありがとうございました。

研究主題「目的に応じて内容を整理し、自分の考えを明確にして書く力を高める学習指導の在り方」

—学習過程の工夫と情報の扱い方に関する指導を通して—

→ 向かって授業づくりをしていきましょう!

